

AMR オンライン国際シンポジウム という健康危機

新型コロナウイルス感染症からの学びを、サイレントパンデミックである薬剤耐性（AMR）への対策に生かすために、わたしたちができること

2021年 **9月25日** [土] 16:00-18:00

*姫路中継会場の開始は15:50

薬剤耐性（AMR）とは、感染症に対して抗微生物薬が効かなくなる問題です。このまま対策を行わないと、2050年にはAMRはがんよりも大きな問題になると言われています。早急に対策を行うことが必要です。第72回WHO西太平洋地域委員会が10月に姫路で開催されることを記念し、日本では、まだまだ認識が低いAMRの問題について、国内外の現状を産学官民の感染症関係者で共有し、日本における今後の対策について議論するシンポジウムを開催いたします。

- ▶主催：AMRアライアンス・ジャパン、姫路市、姫路市医師会、姫路市歯科医師会
- ▶後援：厚生労働省、姫路薬剤師会、兵庫県看護協会西播支部
- ▶協賛：日本製薬工業協会

AMR という健康危機

薬剤耐性（AMR）とは

細菌（病原体）が、抗菌薬の使用に伴い変化し、抗菌薬の効果が小さくなることを薬剤耐性（AMR: Antimicrobial Resistance）といいます。人類が抗菌薬を使用すればするほど、感染症を引き起こす微生物はその環境に適応し、薬剤耐性を獲得していきます。これはある種の自然発生的な過程でもあります。しかし、薬剤耐性菌による感染症が起きると、抗菌薬による治療効果が十分に得られず、最悪の場合には死に至る可能性があります。薬剤耐性菌は国内外で増加しており、このままの状況が続けば、薬剤耐性菌感染症による 2050 年の全世界の年間死亡者数は約 1,000 万人まで上昇するとの予測もあります。このような背景から、2015 年の世界保健機関（WHO: World Health Organization）の総会で「薬剤耐性（AMR）に関するグローバル・アクション・プラン（Global Action Plan on Antimicrobial Resistance）」が採択され、日本でも 2016 年から「薬剤耐性（AMR）アクションプラン（2016-2020）」に基づく、AMR 対策が進められています。

AMR アライアンス・ジャパンについて

AMR アライアンス・ジャパンは、2018 年 11 月の設立以来、今ある AMR 関連の問題について、メンバーや AMR に関連する他の組織とともに議論を深めてきました。その議論をもとに、2019 年 7 月に 7 つの提言を発表しました。この提言を多く関係者の方に知っていただくとともに、日本の力を結集して、医療政策への具現化に向け様々な活動を行っています。

【AMR アライアンス・ジャパンによる 7 つの政策提言】

- 01 - 医療現場の現状を踏まえた抗菌薬の適正使用の推進
- 02 - 国内の AMR に関する危機の管理及びサーベイランス・システムの構築
- 03 - 積極的な耐性菌スクリーニング検査及び迅速診断検査等を実施しやすい体制の整備
- 04 - 国民及び医療従事者への AMR に関する学修支援の整備
- 05 - 抗菌薬開発を促進するインセンティブ・モデルの策定
- 06 - 抗菌薬の安定供給
- 07 - 国内外の好事例や教訓を共有するための国際連携

詳しくは

<https://www.amralliancejapan.org/>



AMRという健康危機

目次

開催概要	3
プログラム	4
プロフィール	5

開催概要

■開催日時：2021年9月25日（土）16：00-18：00 *姫路中継会場の開始は15:50

■言語：日本語・英語（同時通訳あり）

■参加費：無料

■オンライン参加（Zoomウェビナー）

■姫路中継会場

姫路市文化コンベンションセンター アクリエひめじ4階 中会議室

兵庫県姫路市神屋町143-2 姫路駅徒歩10分

※姫路中継会場における感染症対策等の運営については、姫路市役所に

お問い合わせ下さい。（姫路市役所 地域医療課 電話：079-221-2399）

■シンポジウム事務局（オスカー・ジャパン株式会社国際事業部）

e-mail: amr2021@oscar-japan.com

AMR という健康危機

プログラム 敬称略

★は姫路中継会場より登壇予定

15:50-15:55	ご挨拶 (姫路会場のみ)	石橋 悦次	一般社団法人 姫路市医師会 会長 ★
16:00-16:05	開会・趣旨説明	乗竹 亮治	特定非営利活動法人 日本医療政策機構 理事・事務局長 /CEO
16:05-16:25	メッセージ	葛西 健 塩崎 恭久 尾身 茂	WHO 西太平洋地域事務局 (WPRO) 事務局長 衆議院議員/元厚生労働大臣/ 薬剤耐性に関するワンヘルス・グローバル・リーダーズ・グループ 委員/自由民主党 データ・ヘルス推進特命委員会 委員長 独立行政法人 地域医療機能推進機構 (JCHO) 理事長/ 新型インフルエンザ等対策推進会議 議長
16:25-16:40	講演①	世界的な保健課題である AMR - 英国からのメッセージ - Dame Sally Davies UK Special Envoy on Antimicrobial Resistance	
16:40-16:55	講演②	日本における AMR 問題の現状と今後の対策への期待 大曲 貴夫 国立国際医療研究センター 国際感染症センター センター長/ 国立国際医療研究センター病院 AMR 臨床リファレンスセンター センター長	
16:55-17:55	パネルディスカッション	抗微生物薬の適正使用	
	<登壇者> 順不同	Socorro Escalante	The Regional Coordinator for the programme on EMT and AMR at WPRO
		大曲 貴夫	国立国際医療研究センター 国際感染症センター センター長/ 国立国際医療研究センター病院 AMR 臨床リファレンスセンター センター長
		河村 哲治	独立行政法人 国立病院機構姫路医療センター 院長 ★
		阿真 京子	「子どもと医療」プロジェクト 代表/特定非営利活動法人 日本医療政策機構 フェロー
		江浪 武志	厚生労働省 健康局 結核感染症課長
		井上 肇	厚生労働省 大臣官房 国際保健福祉交渉官
		伊藤 達哉	日本製薬工業協会 国際委員長
	<モデレーター>	乗竹 亮治	特定非営利活動法人 日本医療政策機構 理事・事務局長 /CEO
17:55-18:00	閉会の辞	清元 秀泰	姫路市長 ★

※プログラム及び登壇者は変更の可能性がございます。

AMR という健康危機

プロフィール プログラム順



石橋 悦次 一般社団法人 姫路市医師会 会長

川崎医科大学卒業。卒業後、神戸大学附属病院第二内科に入局。須磨赤十字病院、兵庫県立姫路循環器病センターにおける勤務を経て、1989年1月に石橋内科院長に就任。2000年6月以降は医療法人社団石橋内科理事長を兼任し、現在に至る。2016年からは一般社団法人姫路市医師会において、理事、副会長を歴任。2020年より現職。



乗竹 亮治 特定非営利活動法人 日本医療政策機構 理事・事務局長 / CEO

日本医療政策機構 理事・事務局長/CEO。日本医療政策機構設立初期に参画。患者アドボカシー団体の国際連携支援プロジェクトや、震災復興支援プロジェクトなどをリード。その後、国際NGOにて、アジア太平洋地域で、官民連携による被災地支援や健康増進プロジェクトに従事。また、米海軍による医療人道支援プログラムをはじめ、軍民連携プログラムにも多く従事。WHO(世界保健機関) 'Expert Consultation on Impact Assessment as a tool for Multisectoral Action on Health' ワーキンググループメンバー(2012)。政策研究大学院大学客員研究員(2016-2020)。東京都「超高齢社会における東京のあり方懇談会」委員(2018)。慶應義塾大学総合政策学部卒業、オランダ・アムステルダム大学医療人類学修士。米国医療支援NGO Project HOPE プロボノ・コンサルタント。



葛西 健 世界保健機関 (WHO) 西太平洋地域事務局長

2018年10月におこなわれたWHO西太平洋地域事務局長選挙において当選。それ以前は、旧厚生省(現厚生労働省)に入省後、岩手県高度救命救急センターにて勤務。その後、厚生省保健医療局結核感染症課国際感染症専門官、厚生労働省大臣官房国際課課長補佐、宮崎県福祉保健部次長等を歴任。感染症や健康危機管理の専門家としてのWHOでの勤務は15年以上にわたり、アジア太平洋地域の新興感染症への対応や感染症危機管理対策の枠組み構築などに尽力。2006年WHO西太平洋地域事務局感染症対策課長として着任後、同地域事務局健康危機管理部長を経て、2012年WHOベトナム代表に就任。同国における公衆衛生に対する多大な貢献が認められ、2014年ベトナム政府から「国民のための健康勲章」を受賞。その後、WHO西太平洋地域事務局次長兼事業統括部長を経て、現職に至る。慶應義塾大学医学部卒業後、ロンドン大学衛生熱帯医学大学院で修士号を、岩手医科大学で医学博士を取得。



塩崎 恭久 衆議院議員 / 元厚生労働大臣 / 薬剤耐性に関するワンヘルス・グローバル・リーダーズ・グループ 委員 / 自由民主党 データ・ヘルス推進特命委員会 委員長

衆議院議員(自由民主党)。1975年東京大学教養学部卒業後、日本銀行に入行。1982年ハーバード大学行政学大学院にて行政学修士号取得。1993年衆議院議員に当選して以来、参議院議員1期を経て、現在、衆議院議員8期目を務める。これまでに、大蔵政務次官(第2次橋本内閣)、外務副大臣(第3次小泉内閣)、内閣官房長官・拉致問題担当大臣(第1次安倍内閣)を歴任し、2014年9月から2017年8月まで厚生労働大臣を務めた。現在、自由民主党データ・ヘルス推進特命委員会委員長。

AMRという健康危機

プロフィール プログラム順



尾身 茂

独立行政法人 地域医療機能推進機構 (JCHO) 理事長／新型インフルエンザ等対策推進会議 議長

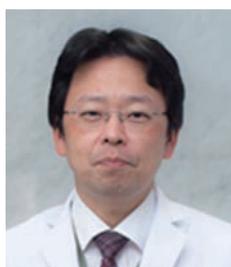
自治医科大学卒業(一期生)。伊豆七島を中心に地域医療に従事した後、WHO西太平洋事務局にて拡大予防接種課長、感染症対策部長、第5代WHO西太平洋地域事務局長などを歴任。西太平洋地域における小児麻痺根絶やSARS制圧の陣頭指揮をとる。20年以上に及ぶWHO勤務を経て、2014年独立行政法人 地域医療機能推進機構(JCHO)理事長に就任。2009年日本政府新型インフルエンザ本部専門家諮問委員会委員長、2016年国際健康危機タスクフォースのメンバー。現在、新型インフルエンザなど対策推進会議議長等として、日本の新型コロナウイルス感染症対策を先導する。



Dame Sally Davies

英国政府 AMR 特使

2019年、英国政府AMR特使に任命され、現在はトリニティ・カレッジ(ケンブリッジ大学)の第40代学長も務める。2011年から2019年まで英国政府の最高医療責任者、上級医療顧問を務める。2014年から2016年まで世界保健機関(WHO: World Health Organization)執行委員会のメンバーを務め、2019年には抗菌薬耐性(AMR: Antimicrobial Resistance)報告に関する国連機関間調整グループ(IACG: Inter-Agency Co-ordination Group)の共同議長を務めるなど、グローバルヘルスの第一人者である。また2020年11月に、「薬剤耐性(AMR)に関する国連リーダーズ・グループ」の一員に選出され、世界中の国家元首や大臣、著名人らと共に、AMRの行動に関する提唱を行なっている。2020年、英国新年の叙勲では、公衆衛生と研究への貢献が評価され、2人目の女性(英国王室以外では初)としてバス勲章(GCB: Dame Grand Cross of the Order of the Bath)を、2009年にはデйм・グランド・クロス(DBE: Dame Commander of the Order of the British Empire)を授与されている。



大曲 貴夫

国立国際医療研究センター 理事長特任補佐／国立国際医療研究センター病院 AMR 臨床リファレンスセンター センター長／国立国際医療研究センター 国際感染症センター センター長／国立国際医療研究センター DCC 科長／国立国際医療研究センター 感染症内科医長併任

佐賀医大医学部卒業。聖路加国際病院内科レジデント。2002年テキサス大学ヒューストン校内科感染症科クリニカルフェロー。2004年静岡県立静岡がんセンター感染症科医長、2007年同部長。2011年国立国際医療研究センター国際疾病センター副センター長、12年同院国際感染症センター長、2017年4月 国立国際医療研究センター病院AMR臨床リファレンスセンター長(兼任)。



Socorro Escalante

Regional Coordinator for the programme on Essential Medicines and Health Technologies (EMT) and antimicrobial resistance (AMR), WPRO

医学博士。世界保健機関フィリピン国事務所、ベトナム国事務局を経て、現在は、同西太平洋地域事務局(WPRO)にて、必須医薬品・医療技術プログラム(EMT: Essential Medicines and Health Technologies)および、抗菌薬耐性プログラム(AMR: Antimicrobial Resistance)の地域調整官を務める。2016年WHO事務局長よりWHO Reward of Excellenceが授与された。

AMRという健康危機

プロフィール プログラム順



河村 哲治 独立行政法人 国立病院機構 姫路医療センター 院長

京都大学医学部卒業。卒業後、京都大学胸部疾患研究所第1内科に入職し、1988年からは国立姫路病院(現 姫路医療センター)で勤務。その後、2004年から姫路医療センターにて、呼吸器内科医長、臨床研究部長(呼吸器内科医長兼任)、特命副院長、副院長等を歴任。2021年より現職。日本内科学会認定医・指導医、日本呼吸器学会専門医・指導医、日本感染症学会専門医・指導医、日本結核・非結核性抗酸菌症学会専門医・指導医。



阿真 京子 「子どもと医療」プロジェクト 代表/特定非営利活動法人 日本医療政策機構 フェロー

1974年東京都生まれ。都内短期大学卒業後、日本語教師養成課程修了。マレーシア 国立サラワク大学にて日本語講師を務め、帰国後外務省・外郭団体である社団法人 日本外交協会にて国際交流・協力を携わる。その後、夫と飲食店を経営。2007年4月、保護者に向けた小児医療の知識の普及によって、小児医療の現状をより良くしたいと『知ろう!小児医療 守ろう!子ども達』の会を発足させ、2012年7月に一般社団法人知ろう小児医療守ろう子ども達の会となる。同会による講座は160回を数え、6000人以上の乳幼児の保護者へ知識の普及を行う。2018年からは企業でのセミナー、産婦人科の母親学級を実施(2020年4月末日同会解散)。東京立正短期大学 専攻科 幼児教育専攻(『医療と子育て』)非常勤講師。三児の母。厚生労働省 上手な医療のかかり方を広めるための懇談会 構成員、厚生労働省 救急・災害医療提供体制等の在り方に関する検討会 委員、総務省消防庁 救急業務のあり方に関する検討会 委員、東京消防庁 救急業務懇話会 委員、東京都 小児医療協議会 委員、内閣官房 薬剤耐性(AMR)対策推進国民啓発会議 委員、その他、多くの委員を歴任。「子どもと医療」プロジェクト 代表。



江浪 武志 厚生労働省 健康局 結核感染症課長

大阪大学医学部卒業。1996年厚生労働省入省。2005年9月より世界保健機関へ出向。帰国後、2008年9月より厚生労働省健康局結核感染症課長補佐等を経て、2011年7月青森県健康福祉部長。2018年10月厚生労働省大臣官房厚生科学課医療イノベーション企画官。2019年7月より健康局がん・疾病対策課長。2020年より現職。



井上 肇 厚生労働省 大臣官房 国際保健福祉交渉官

NCGM にて小児科臨床研修後、1994年 JICA フィリピン母子保健・家族計画プロジェクト 専門家を経て1996年厚生労働省入省。肝炎対策推進室長、新型インフルエンザ対策推進室長、国際協力室長や結核感染症課長として主に国際保健・感染症分野の職務を担当。2015年より WHO 事務局長補。在任中、AMR 事務局長特別代表として AMR をグローバルヘルスの中心課題の一つとして提示した。2018年より国立国際医療研究センター企画戦略局長として勤務した。2021年9月から現職。東京大学保健学修士、ハーバード大学公衆衛生学修士、帝京大学公衆衛生学博士。

AMRという健康危機

プロフィール プログラム順



伊藤 達哉 日本製薬工業協会（JPMA）国際委員長／国際製薬団体連合会理事会副議長

2021年4月より日本製薬工業協会国際委員会の委員長として、世界の保健医療に貢献する日本の製薬産業のなお一層の国際化を支援するとともに、その国際的なプレゼンスの向上を図るための活動に従事。個社での活動としては、大日本住友製薬で20余年に亘り、自社が創製した国産医薬品の海外事業展開に従事。東南アジアにおける同社感染症治療薬事業実施のための体制づくりをリード。海外経験も豊富で、米国ニュージャージー州に5年間、マサチューセッツ州に4年間、現地子会社に勤務したほか、2019年4月から2年間はタイ王国で責任者として現地法人立ち上げに参画。兵庫県立大学卒、兵庫県芦屋市出身。



清元 秀泰 姫路市長

国立香川医科大学卒業。医師免許・医学博士取得後、米テキサス大学学術研究員として留学。帰国後、香川大学医学部附属病院講師を経て、2010年10月東北大学医学部に異動、2012年2月より東北大学教授。被災地復興に専心し、文部科学大臣賞（科学技術賞理解増進部門）を受賞。2015年4月日本医療研究開発機構調査役・プログラムオフィサーとして出向。2018年5月東北大学を退職。2019年4月姫路市長に就任。